内郷村報

天法人則ニ從順ナルベシ

敬神崇祖に關し全國學務部長に希望す

（紀元節早朝執筆）

國民精神總動員福島縣實行委員　大内民惠

憲法發布五十週年を祝賀し國民精神强調週間の第一日たる、皇紀二千五百九十八年、意義深き紀元の佳節にあたり、予は憂國の至情默止し難く、年來抱懷する、所感の一端を披瀝して、全國各府縣學務部長各位の、贊同協力を仰ぎたいと思ふ。今や世界は、紛然騷然、麻の如くに亂れ、如何に之を解紓し、如何に之を整理して、平和の曙光を仰ぐべきかは、世を擧げて、憂慮措く能はざる現狀である。此時局に當面して、我帝國は、聖旨を畏こみ、御稜威をかざして、上下一致、東亞の天地に、快刀亂麻を斷つの義擧に出つると共に、獨以兩國と同盟戮力、西歐の天地を席捲風靡せんとする慨を、示しつゝあるのである。眞に帝國未曾有の一大快擧であると共に、帝國空前の一大難關に當面するものといふべきである。

此時此際、我々國民は、如何なる態度決心を以て、之に處すべきか。

內治外交軍事産業等々、全面的に緊張併進、其大使命を全うすべく、それこそ長期精進を覺悟せねばならぬ事と思はれる。

而して其長期精進には、强健なる後續部隊を、要する事亦論を俟たない。

こゝに於て

淵に臨んで魚を捕へんと欲せば先づ退い網をつくれ

即ち我々は、此一大難局に處して、萬遺算なきを期すると共に、其網の作成、即ち後續部隊の敎養に、其最善を致さねばならぬ事も、亦當然である。之を要するに、帝國の大使命達成の關鍵は、實に第二第三國民の敎育如何にあると、斷言して憚らぬ。

國民敎育を、如何に改革刷新すべきかは、容易に之が解決實行を見る事は、困難であり、予は之を終生の研究として、既に著書に雜誌に、將た新聞に、其意見の一端を、發表してあるを以て、こゝに重ねて之を述べないが、此紀念すべき、空前の佳節にあたつて、國民敎育の現況に鑑み、即時實行の可能性を有する、一問題に就いて、各位の眷顧協賛を仰ぎ、協力以て其實行を期したいと思ふ。

それは「敬神崇祖」の問題である。

いふまでもなく、敬神の神は、國民の祖先、古代の神々、歷代の天皇、功臣の靈であり、崇祖の祖は、我々個々家族の祖先である。

敬神は忠、崇祖は孝の根元をなし、忠孝一本は、我國體の精華にして、字內無比なる所以である。然るに西洋の辭書中、祖先崇拜の條下に

祖先を祀ること、野蠻人の風習今日支那及日本にも其風習遺る

とある、笑止千萬な說明を其儘に信じ、定まれる祖先と稱すべきものを有せざる哀れむべき西洋に、心醉せる明治初年の學徒等は、馬鹿々々しくも、かうした見地から、日本を文明國の班に列せしむるにはと、排佛棄釋、祖先崇敬に反抗し攻擊したものである。我國の敎育制度は、かゝる人々の献言によつて、制定せられたるものなるが故に、其道場たる校舍の設備、其任にあたる敎員の敎養等が、六十有余年、其傳統を引いて今日に至つたものであつて吾人をして轉た憂慮に堪へざるものがあるのである。

校舍の設備問題は之を後日にゆづり、先づ敎員の敎養問題に就いて一瞥するに、彼等は、文部省乃至內務省等より、敬神崇祖の訓令をうくるや、直ちに講堂に敎室に、怜も蓄音機の如く立派に放送する。又敎科書中敬神崇祖の敎材に接すれば其敎授は見事にやつてのける、御眞影奉安殿、神社佛閣に對しては、生徒と共に禮拜する。一見其眞摯なる態度、かくあるべきものと我等も亦首肯せられる。されど一歩進んで、彼等の修養內容は勿論、生徒に及ぼす影響感化の實蹟を、深く檢討するに於て、思ひ半ばに過ぐるを思はしむるのである。

一言之を盡せば、彼等のやつて居る行動は、訓令の放送であり、命令の遵奉であり、文字の解釋であつて、其處に精神的なる敎育とか訓練とかを、毫も見出す事が出來ないのである。

畏くも雲上に於かせられては、每朝必ず神殿拜禮の儀を行はせられると拜聞する。臣子たる我等、殊に身國民敎育の任にあるものゝ大に鑑みざるべからざる次第である。

然るに、先づ彼等の生活の根據たる、家庭の實際を檢分するに、敢て皆無とはいはざる迄も、神棚佛壇を備へ、榊花飯水を捧げ、敬神崇祖、之を每朝禮拜しつゝあるもの、それ幾何かあるである。されば彼等中には神佛禮拜の作法をさへ、知らぬものが決して少くなく神佛の禮拜は、爺婆の仕事で、西洋の辭書にある通り蠻風視して居るかの如くに思はれるのである。師にして然り、況んや弟たるものに於ておやで、其在學生は勿論、卒業生に於ては、敬神崇祖の確たる信念行動を缺除して居る事も亦當然である。假りに彼等に、之を詰れば、仰せは御最であるが、我等は轉々任地をかへるものであり、又居宅も狹いので、そうした設備をなす事は出來ないが、

心だに誠の道にかなへなば祈らずとても神やまもらん

で、國民として、敎育者として、充分其心掛けは、持

（以下二面へつゞく）

内郷村報の六大使命

一、政黨政派を超越して、村力を標榜す。
二、村內公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
三、本村社會事業の徹底を期す。
四、村內の産業奬勵を強調し、且之を奬勵す。
五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
六、會餘力を以て國民養成に當る

本誌發行は大內一家の事業にして、其の社說は子孫に傳する遺書を發ぬるものなり。

毎月一回十五日發行
本誌定價一部金五錢一ヶ年前拾六錢金四十八錢
發行所　福島縣石城郡內郷村官下字官源二　內郷村報社
編輯發行兼印刷人　右全字　大內民惠
印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九　平活版所

つて居ると辯解する。されど予は何も、莊嚴なる神棚華麗なる佛壇を備へよ、といふのではない。神符を奉安し、靈牌を安置するに足る、淸楚にしてさゝやかなるそれを備へて、之を每朝尊崇禮拜すると共に、衷心國民精神を昂揚せよといふのである。誠心誠意さへあらば、神佛の守護如何は、兎に角として、自ら神佛を崇拜するに至るべきではあるまいか。

予は三十有余年前眞宗の或信徒が旅行するに際し、必ず御名號を携へ、宿につけば先づ、それを床の間に安置し、念珠つまぐつて參拜する光景を見て、之ある哉と感嘆し、數々の神符を納めたる一封と祖先の戒名と、墳墓の土一塊とを納めたる、繰出し位牌とを携へて外遊の途に上り、在外十有三年間は勿論、今日に至る迄、假隅の一室に、之を奉安して、必ず每朝燈燭香華を供へて、奉拜すると共に國民精神の研鑽と、之が昂揚とに拮据努力して居るのである。

又北海道にあつて、開拓に從事して居る我二兒も、亦此風にならひ今又予は、使用人の子弟五人（中等學校生二人小學校生三人）と、寢食を共にして居るが、之亦予にならつて、每朝神佛を禮拜しなければ、食膳につかぬ事として居る此等我子女の將來は、果して予が期待する、眞に忠良なる臣民となるや否や、刮目して其成人を待つて居るのである。

希くは、全國各府縣學務部長各位！各位は、其府縣に於ける教育の中心であり、大御所であつて、其管下教職にある者は、各位の一言一行に、一擧一動し、各位の一顰一笑に、一喜一憂する、羊の如く從順なるものである。此非常時に際して帝國の一大使命達成の、大責任を負擔する、後續部隊たるべき、第二第三國民の教育の爲に、予が希望念願を容れられ、先づ其管下各學校長に對し、

校長は勿論部下教職員家庭に神棚佛壇の有無を調査報告せよ。

の命令を一下し、先づ教職員自ら、子弟に對して、敬神崇祖の範を示し、國民精神昂揚の實蹟を擧げよと、訓示せられよ。其一擧必ずや偉大なる効果を奏する事疑なしと、予は信ずるものである。

忽卒の執筆、其言辭に不遜の点少しとせず。偏に其容赦を乞ふて擱筆する。

本紙は特に增刷して文部省及各府縣學務部長に贈呈する事とした。

出征將兵各位へ御挨拶

前號豫告の通り、本號より出征勇士各位の戰地通信を掲載する豫定であつたが、村役場宛の通信のみにても二百餘通に達し、又如何に抄錄しても限られたる本紙には其の餘白を有せざるを以て、遺憾ながら本號には先づ役場に寄せられたる氏名だけを發表して、其の御厚意を謝し、漸次其中の代表的の分を抄錄掲載する方針とした。事情を賢察して諒承を乞ふ次第である。同時に其通信を全部保存して之を保管して、永久に將兵各位の功勞と懇情とを感謝し記念する考である。磐炭關係にも其の通りで、次號に先づ其氏名を掲載する豫定である。

上海派遣軍

都築源作　大橋貞勝
鈴木孝親　南波久
遠藤正美　中村忠義
吉田武司　鈴木一
豊田佐市　永山實
渡邊三郎　山崎政雄
鈴木留之助　馬目友重
久野義明　橋本長五郎
遠藤英男　遠藤辰一
下遠野遥　鈴木長吉
松崎一郎　小松忠雄
加藤憲治　長谷川衛
河野四郎　宇佐美貞吉
關口菊雄　齋藤武美
野木己由　平塚藤一
塩田新太郎　鈴木將夫
大竹義雄　羽田七五郎
佐藤茂勝　松島勝
横山要　吉川善一郎
福永平治　菊地銀三郎
永山利男　江尻勝
鈴木秀夫　高山良男
箱崎武男　鈴木一郎
遠藤文治　比佐敏夫
齋藤文吉　根本國衛
磯部恒久　木村武男
國友作次　永井幸作
高野辰次郎　稻村健藏
鈴木由榮　齋藤正
長谷吉治　大和田子之松
塩田實　松本清
大和田虎司　齋藤進
木田道愛　笹越泉
下山田清風　泉朝吉
一木久吉　川島秀雄
中根傳　高橋由次郎
安齋辰治　荒信安
先崎亀代見　大森茂壽
松井竹信　添田辰內
山田佐榮　長塚育太
北島平助　金俊夫
秋山小太郎　西牧安長
小林政一　若松一郎
樫村兵衛　遠藤作四郎
中田長信　櫻井仲義
松兼正利
北支派遣軍
渡邊五郎　中里順作
清野丑太郎　鈴木吉之助
鈴木貞藏　櫻井孝雄
壽々木正一　大越美身
本田平　永峯年男
今泉太　阿部新喜
草野和男　阿部圓藏
清水文男　三浦銀平
曳地忠助　渡邊武雄
今野音松　鈴木三郎
山崎五三　菅野光義
山中源藏　大田可眞毅
小森俊三　鈴木重省
横山要　大森茂盛
菅島正衛　小松高美
後藤莊太郎　柏崎二男
佐久間一　芳賀助治
藤原秀光　大內初吉
內藤敏　志賀五郎
渡邊淺雄　武藤定雄
桐原午吉　大和田美門
遠藤與一郎　志鎌繁美
加々美鶴二　芳賀玄照
石田延　方波見捨男
三浦一　高橋喜代司
高橋勝視　松崎廣吉
弘光重敏　佐々木重男
今政治

滿洲國

佐藤文吾　鈴木正吾
菅野彦一　四家辰夫
木田昌夫　鈴木善一
小林金次郎　佐々木運
山崎忠　鈴木久四郎
佐々木進　岡田藤三
四家治郎　山田俊淸
高橋淸　高山辰義
大越山　箱崎信一

（以下五面へつゞく）

（五面よりつゞく）

遠藤平右工門　佐藤一二
小下忠左工門　安藤平吉
眞壁三郎　內　發藤
丸山亀千代　蛭田米吉
菊地德右工門　山崎一男
齋藤久工門　渡邊親雄
神田秀四郎　高木春次郎
阿部幸助　高倉橘良
管井運太郎　竹田兵藏
佐々木直忠　渡邊源吉
田中原治　遠藤留吉
石川博　鈴木寛

以上總計八十八名

因に二ヶ年間其任務を全うしたる前世話役八六名に對し

教育後援會

猪狩支部長辭任

昭和四年より十年間、兒童

矢野恒太
飯郷宇之吉 序 大內民惠 著
教育制度改革概論
（四六版二二一頁 定價五十錢 郵稅六錢）

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大內案九主義を提唱す。天下知名の士の贊同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。
書た寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不愚感激ニ打メ……候云々。

發行所　日本評論社　東京京橋三丁目
取次所　內郷村報社

振興委員會

二月八日午前十時より村會議事堂に開催、左記の件を協議した。

一、一月二十五日の市町村長會議の知事閣下訓示傳達

二、第二回國民精神總動員運動強調週間に於ける實踐事項

國民精神總動員 第二回強調週間

内郷各小學校

一、實施要領

1 我が尊嚴なる國体、宏遠なる肇國の理想、日本文化の精神を國民に徹底せしめ以て日本精神を昂揚せしむる、我國現下社會各般に見らるゝ弊害が外國思想及外國文化を無批判的に採り入れたる事に由るもの多きに顧み、日本精神の根本主義に立脚して、此際國民をして深く之を反省せしめ、社會生活に於ける、各般の弊害匡正に努めしむること、特に誤まれる個人主義、自由主義、功利主義、唯物主義の打破に努めしむること

二、實踐事項

1 二月十一日　國体觀念明徴日、紀元節、擧式、各家庭に於ては午前十時を期し宮城遙拜のこと。

2 二月十二日　時局認識日　時局に關する訓話（愛國行進曲合唱）

3 二月十三日　職業報國、自肅反省の日、各自の本務に精勵、其の日の日誌をつけて受持教師に提出。

4 二月十四日　出征將兵遺族慰問日、教師は關係家庭の訪問、兒童は慰問文作成

5 二月十五日　克己銃後報國の日、勤勞奉仕、校舍内大掃除、神社淸掃。

6 二月十六日　前日と同じ職員共同作業。

7 二月十七日　節約貯蓄日訓話、貯金調。

愛國婦人會 傷病兵慰問

當村愛國婦人會分會員代表者一行十二名は支那事變に依る傷病兵本村關係十一名見舞のため若松、飯坂の兩陸軍病院へ十六、七の兩日出張する豫定である。而して金一封の御見舞金を贈呈し、別に白衣の費用として兩病院へ金百圓宛を寄贈する豫定の由。

兩勇士の美擧

本村大字御台境の出身上海派遣軍、荻洲部隊鈴木喜部隊湯淺部隊所屬の齋藤武美一等兵は在郷軍人本村分會の維持費へと俸給の中金五圓を寄附、又大字白水濱井場出身上海派遣軍柳川部隊本部氣付堀内部隊内泉淺吉特務兵は、村出身にて戰死者の御靈前にと金參圓を俸給より寄附せし故當局に於ては戰死者遺族に對し線香を靈前に供へせしめた。

匿名篤志家

舊臘中、上綴高岡精米所へ匿名の篤志家が今回の支那事變に出征、應召せる軍人遺家族中の貧困者に對し、舊正月の費用として糯米一俵を寄附したき旨申出てありたるを以て、當役場に於て之を受附け、村長と關係者一同相談の上、寄贈者の精神に添ふべく、之を取計つた。

村助成會寄附（二）

並に給與

同情週間中、歳末同情金寄附せる末報告の支部左の通りの成績を得た。

宮支部　一五八圓五八錢

御厩支部　二二圓一〇錢

磐城炭礦會社よりは金壹百圓寄附があり、合計五一八圓五六錢であつた。次いで歳末救恤金給與狀況は左の通りである。

支部別	人員	金額
白水	三六	九圓六〇錢
宮	九〇	二六圓七〇錢
内町	一九	五圓
上綴	三三	九圓七〇錢
下綴	五	一圓三〇錢
高坂	二一	六圓三〇錢
御厩	四二	一二圓
御台境	五	一圓六〇錢
小島	一七	四圓九〇錢
濱井場	一四	四圓三〇錢
合計	二八二	八一、四〇

海軍志願兵

本年度、海軍志願兵合格者試驗は二月七日午前九時より平第三小學校に於て施行本村志願兵は二十四名にて合格者十三名其中採用者は五月發表の由。

方面委員會

二月八日午後零時より村役場内に於て開催左記の件を協議せり。

一、歳末同情金給與の件

二、母子救護法實施の件

三、取扱上の打合せ

國防献金と慰問袋

（恤兵金）

十圓　根本保吉外十名

（眞綿の代金）

三二圓五〇錢

金澤慶一外一八五名

（眞綿の代金）

二〇圓　白水　若松利重

亡母の遺言に依り

六圓　若松利重外三五名

防空演習の際の寄附金の殘金

（慰問品）

慰問袋　一、〇九一個

磐城炭礦會社從業員並愛國婦人會

家政女學校 生徒募集

一、本校は青年學校令に依り女子青年に對し、其の心身を鍛錬し、德性を涵養すると共に、實際生活に必要なる裁縫家事科の教育を重視し、現代婦人として社會の進歩に伴ひたる教養を附與せんとするにあり。

二、學科目（括弧内は一週時數）本科のみを示す。

修身及公民（一）國語（三）裁縫手藝（二四）家事（二）園藝（一）体唱（二）生花（隨意）

三、募集要項

1 募集人員　本科第一年（高小卒業者）約六十名　研究科（本科卒業者又は高女卒）若干名。

2 入學手續　入學願書用紙は本校より交附す。

三月三十一日志願者の父兄と懇談會を開く豫定につき願書は當日持參する事。學校に關する詳細は當日申上ぐる事にします。

名譽の戰死者【三】

大字宮字宮澤二　十一月三十日南京戰
陸軍步兵一等兵　田邊操（三四歳）

大字高坂、御殿一　十月二十三日上海戰
陸軍步兵一等兵渡邊新三郎（三一歳）

大字宮鬼ヶ澤一〇〇
上海戰
陸軍步兵一等兵　熊田清磨（三一歳）

六勇士の村葬

一月二十三日午後一時より第二小學校に於て、故海軍二等機關兵曹、松崎光雄、故陸軍步兵上等兵、菅野清一、同、北鄉久次郎、同、熊田清磨、同、高橋喜一郎同、鈴木巳喜男、六勇士の村葬を擧行した。校舍內中央に六勇士の寫眞及遺骨を安置したる莊嚴なる祭壇をしつらへ、其の左右に添うて、參謀總長宮殿下、陸軍大臣、敎育總監の三長官始め縣知事、縣銃後會等各方面よりの献花を供へ、校舍內には遺族、並に村長を始め村會議員、各區長、各學校長、各方面委員其他各種團体代表者等參列、舍外には六勇士の親戚及關係者等降雪にかかわらす、無慮壹千名參列し懇ろなる回向供養が行はれ、次いで遺族の燒香、沼田祭主の祭文、海軍大臣代理其他代表者十數名の弔辭奉讀あり、宮、白水、上綴の各方面に夫々行列を作り午後四時無事散會した。

名譽の戰傷者

本村關係の出征者中名譽の戰傷を受け內地に歸還夫々療養中の者左の如し。

大字內町駒谷七〇
步兵一等兵　馬目彌一

大字宮峯根二二號
步兵一等兵　矢部藤馬

大字高坂住吉十一號
步兵一等兵　樋口恒四郎

大字宮峯根一五號
步兵一等兵　丸山亀千代

大字白水濱井場西十一號二
步兵一等兵　高木雪次郎

大字綴一ノ坪二號ノ二
步兵一等兵　加々美市郎

大字宮瀧六六
步兵一等兵　渡邊親雄

大字綴堀坂一八
步兵一等兵　蛭田米吉

大字內町金坂
步兵一等兵　濱尾政信

大字高坂御殿一
步兵一等兵　青木元彌

大字白水濱井場一
步兵一等兵　川島久治

堆肥増產動員週間

（一）實施主体　縣及市町村
（二）參加團体　農事、煙草養蠶畜產林業產業組合等各種產業團体、男女青年團、各銃後會其の他。
（三）實施期日　昭和十三年三月七日より一週間、終了後翌日一齊調査。
（四）縣及市町村の行ふべき事項
1 堆肥増產動員實施協議傳習會の開催
2 指導督勵の徹底
講習講話會の開催、印刷物の配布。速成堆肥製造方法の實地指導、堆肥積込濟證の每戶貼布等を行ふ豫定

◎急告

其一
國稅、田租第二期分は本月二十五日が納期限ですから御忘れなく、納付して下さい。

其二
昭和十三年度就學兒童年齡は昭和六年四月二日より昭和七年四月一日迄の生れの者でありまして、三月中に就學通知を役場より差上げます。もし寄留者にて寄留屆を出してなければ通知がありませんから至急其の手續をして下さい。

3 優良事績の調査　市町村に於ては成るべく團体又は個人に付調査の上選賞する豫定

追て仔細の計畫は村當局に於て關係者を參集せしめ協議會を開催の上、決定する筈。

卒業生の就職狀況

內郷高等校

多年螢雪の功成つて、新に本校高等科を巣立つ者四百七十餘名は、其の父兄の多くが炭礦又は之に關聯する職業に從事せる關係上、その方面に志す者が頗る多いのであるが、本年は殊に時局の影響により其傾向が壓倒的である。特に本校に於ては、卒業學年に對しては職業指導に重きを置き、之れが指導に努むる一方、縣社會課及平市職業紹介所とも協力して、百方其の就職口を求めたる結果、左の通りの決定を見た。

磐炭勞務課關係　七七名
仝　礦務課關係　一三名
東京瓦斯電氣工業株式會社　九名
海軍工廠並に同航空廠　二五名
其他　二四名
計　一二八名

內郷信用組合

逐年好成績を擧げつゝある內郷信用購買組合は、一月十六日家政校に於て第廿三回通常總會を開き、山崎理事議長となり、第一より第六號の議案協議決定した。而して役員改選の結果理事として沼田濱之助、山崎庫太郎、生田常弘、大越治七四家又一の六氏再選し、新に島田兼吉、佐藤三平兩氏の選任を見、監事として市川善長、四ツ倉酉次郎の兩氏再選、野木富治、根本保吉、大平彌惣次三氏の新任を見た。其の成績の概要は左の通りである。

一、組合員及出資は新加入二三名、脫退者四名、現在三四七名にして差引一九名增加し出資口數は差引二三〇口を增加したり。

二、貯金に於ては前年度末六八、九九八圓餘に比し二八、七五八圓餘を增加し九七、七五六圓六〇錢となれり。

三、貸付金は現在に於て一〇一、三〇〇餘圓を貸出し件數四〇九件一九七人となり、是れが用途別を示せば產業資金として二六、七七〇圓商業資金として二九、七五〇圓經濟資金として一三、八〇〇圓舊債償還資金として二四、〇七〇圓其の他六、九〇〇圓とす。

四、購買事業は本年度中の購買高は肥料二、三〇〇圓政府所有米拂下一、七〇〇圓產業用品二、四五〇圓其の他經濟用品として一、〇〇〇圓なり。

農家暦

二月　考案の月

（下旬）蔬菜軟化物の收穫、蔬菜苗床の管理、果樹棚の手入、鷄の育雛、野鼠の驅除、紫雲英の補肥、落葉果樹の接木、堆肥の製造、馬鈴薯種子の共同購入。

三月　準備の月

（上旬）苗代耕耘及株除去、大小麥の追肥と土入、用水惡水路の整理、春ウドの盛土、春蒔人參牛蒡下種、夏大根の下種、果樹類の栽植、肥料の共同購入及配合。

（中旬）三歳牡馬の去勢、胡瓜蕃茄及南瓜の下種、葱頭の補助、水田二毛作馬鈴薯の栽植、茗荷の收穫、ザ！トウエソケンの春蒔、桑果樹類の接木及施肥耕耘、花卉物の下種、苗木床替。

（五面よりつゞく）

遠藤平右工門　佐藤一二
小下忠左工門　安藤平吉
眞壁運三郎　山内　俊春
山崎　正直
朝鮮及內地
川島　久治　草野　睦
大平　勝彌　土生德三郎
宮川　哲成　高橋　辰美
丸山亀千代　蛭田　米吉
菊地德右工門　山崎一男
齋藤久工門　渡邊　親雄
神田秀四郎　高木雪次郎
長谷川亀雄　樋口恒四郎
濱尾　政信　小菅　勝己
白土　亨

（以上順序不同）

新任親和會世話役

磐炭に於ては、各方部會員の推薦を基礎として、愼重なる詮衡の下に、昭和十三年度の親和會世話役を決定し、礦業所より一月一日附を以て、左の諸氏を任命した。其順序は區順により、氏名の上の「長」は支部長「副」は副支部長「書」は書記の略號である。

◎町田　一一名
副金子　鵬禪　野崎　四郎
吉田　善次　副岩崎　義美
長島　光太郎　書川村　二郎
武田　金次　横山　忠吉
小林今朝吉　佐藤　義一
小室　精一
◎峰根　一一名
吉田　保造　長鈴木　長應
後藤德之助　副加藤　亀藏
山本　留平　高橋　勝二
小室　軍平　書増山　春吉
副鈴木重右工門
◎平太郎　三名
副田代　正已　長羽田房次郎
書佐藤　彌吉
◎宮澤　一四名
村上　新雄　松井　正美
熊谷　春二　書吉田勇喜男
阿部　一郎　池澤　卯一
長山家　榮三　橋本　章
田中富五郎　渡邊　留吉
副下河邊佐富　田中　祐平
工藤萬之助　早坂　嘉七
◎御殿　二九名
長澤助三郎　石原　善夫
書五十嵐眞藏　樋口三五郎
高橋　久作　濱崎　清
須田　米吉　仁田　定雄
橋本　定吉　柴田　正
鈴木　森治　副鈴木　正之
村上權太郎　富慳　彌一
副志村　正豊　圓谷　末廣
新妻　辛　高萩寅之助
栗原　一三　管野　正春
長管野文右工門　野崎　亘
高木仙一郎　丸元諏訪治
富塚　政市　添田　幸治
松崎　長治　齋藤爲五郎
菊地長五郎　副馬上北太郎
佐久間　武　大友清太郎
阿部　幸助　高倉　橘良
管井運太郎　竹田　兵藏
佐々木直忠　書渡邊　源吉
田中　源治　長遠藤　留吉
萩谷　留吉　關根　福藏
渡邊　廣記　泰樂　秀政
塩澤　富藏　萩原伴三郎
近藤　操
◎平　二名
石川　博　鈴木　寛
以上總計八十八名

前川專務副社長に昇任

磐城炭礦副社長
前川專務
氏

多年磐城炭礦專務取締役として、令名高かつた、專務取締役前川益以氏は、最近重役會の決議により、副社長に推薦せられ、其就任を見る事となつた。尚同氏は因に二ヶ年間其任務を全うしたる前世話役八六名に對しては、十二月二十六日紀念館に於て表彰式を擧行、紀念品として金火鉢一個を贈與せられた。

教育後援會

高坂支部

最近配布になつた、內郷村兒童教育後援會高坂支部の報告によれば、昭和十一、十二兩年度の收入は、會費集金高三七五圓六四錢、前年度繰越金二四三圓八四錢合計六一九圓四八錢。支出は五〇二圓一一錢、差引殘金一一七圓三七錢を十三年度に繰越し、其支出內譯を見るに、何れも會の目的に準據したる適切なるものにて、村敎育に貢献する處、多大なるものであり、尚本年度の事業計畫を、五項に分けて發表してあつた。

經費節約標語當選

（應募人員六九九人、語數二五一三）

磐炭礦業所
第二磐炭礦業所

一等　先づ節約で御奉公　長倉坑職員　齋藤　義勝
二等　平常の節約有事の備へ　住吉坑運搬夫　南條　義三
同　小さな節約大きな奉公　綴坑支柱夫　松本　孝平
三等　捨てる屑でも工夫で生せ　發電課運轉手　粂田道至老
同　職場の節約手近な奉公　住吉坑採炭夫　松山　榮翠
同　造る氣持で無駄なく使へ　製作課職工　小野寺　清
同　見直せば捨てる物なし國の爲　町田坑軌道夫　吉田勇喜雄
（佳良入選者氏名）赤津三郎、箱崎高義、草野生一、志賀安治、佐藤伊佐美、草野生一、中澤光保、伊藤貞子、石井國義、大槻保、竹內豊春、齋藤祐三郎、箱崎哲雄、今野長雄、三瓶與吉、松田三三、片寄安義、鈴木哲夫、佐藤榮治郎、李花鳳、新妻育太郎、吉田勝見、佐治四郎、山內一三、佐瀧吉三郎。以上二五名

教育後援會

猪狩支部長辭任

昭和四年より十年間、兒童教育後援會高坂支部長として、其基礎を確立し、其今日あるを致したる、大功勞者たる猪狩喜平治氏は、此程勤務の都合上、辭任せられたるを以て、其後任として、山崎辰亥氏就任し、副支部長として、湯座喜代之助荒木計の兩氏庶務會計として、八島義忠氏、幹事長として御殿宮澤の親和會兩支部長が就任した。

◎本紙賛助金寄贈芳名

金貳拾圓　滿洲　古泉延隆
金壹圓　福島　伊藤武壽
金貳圓　宮　下秀貫
金壹圓　金坂　坂本吉太郎
金壹圓　二本松　崎田直昌
金壹圓　平　鍬吉眞木
金貳圓　新潟　長谷川羽一
金貳圓　上海軍　吉川善一郎
（以下次號）

矢野恒太序　大內民惠著
眼鼻字之吉
教育制度改革概論
（四六版二一一頁　定價五十錢　郵稅六錢）

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歷史と實驗とから新に大內案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚擧に遑あらず。されど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
前京大總長小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體驗ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯憂國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議感ニ打ル、感云々。

發行所　日本評論社
東京京橋三丁目
取次所　內郷村報社

此等青年の將來に期待する、眞に忠良なる臣民となるや否や、刮目して其成人を待つて居るのである。

希くは、全國各府縣學務部時に其通信を全部保存して之を保管して、永久に將兵各位の功勞と懇情とを感謝し記念する考である。磐

松崎　一郎　小松　忠雄
加藤　憲治　長谷川　衛
河野　四郎　宇佐美貞吉
關口　菊雄　齋藤　武美
北支派遣軍
渡邊　五郎　中里　順作
清野丑太郎　鈴木吉之助
鈴木　貞藏　櫻井　孝雄
四家　治郎　山田　俊清
高橋　清　高山　辰義
大越　山　箱崎　信一
（以下五面へつゞく）

開拓記錄（三）

北海道十勝國上川郡清水町　清水山莊　大内　きみ　一郎

例の下附を願つて置いた土地檢分に、十七日支廳から見えられ、次いで十九日には、其上席の方も來られましたが、要するに役場で村會にまでかけて、出願してあるのだそうですから、遺憾ながら斷念いたしました。又別に他に土地を入手する方法もがなと考慮いたして居ります。其後二郎も一生懸命で、朝は三時半に起きて、乳をしぼり、一郎も手傳つて居ります。昨日英雄會社に出頭、體格檢査に合格、今朝辨當持參で、出勤せよとの事で、六時頃出かけました。夜勤になれば明日、そうでなければ今夕、夜具を持參する事になつて居ますので、其時は一郎が馬車でおくる事にいたして居ります。昨日新潟の姉から、馬鈴薯と南瓜の禮が參りました。南瓜は堅いので鋸で大切にした云々、味は關屋南瓜の比にあらず云々と、申して參りました。私が鉞で割る事を失念して申してやらなかつたのですそしていろ〳〵小包で送つて下さいましたから、お序の時お禮狀を上げて下さい。昨日從來御厚情をいたゞいて居る各方面へ、それぞれ鐵道便で、山莊の產物を贈呈いたしました。此度は杉田の本宅で福島の大會に出席せらるゝ、內郷と平の方面委員方のお宿をせられ福島の姉上はじめ皆樣の御手傳をいたゞいた由、大變で御座いましたれ。松村さんから其御通信をいたゞきました。皆樣が御滿足下さつた由、ほんうたに結構で御座いました。

またいろ〳〵のお役を仰せつかつた由、並大低では御座いませんれどうぞお體をお大切に！

十月二十二日　きみ

拜啓　其後は御無沙汰いたしました。お父さんには愈々御元氣、山形秋田方面への御出張、方面委員大會御出席、地藏尊祭典、御歸山後は、又各方面の御賂演等々、公私誠に御多忙の御活躍、御大儀ではあるが、一面慶賀に堪へない次第です。秋田よりの菜子繪端書、新發田よりの御菓子、由清への毛布等、眞に有難う御座いました。厚く御禮を申し上げます。母上から御報告申上げた通り、各方面へ山莊の產物を送つて上げた處、何れも樣から、御手厚い御禮狀をいたゞきました。今年は內地も大根は凶作なそうですが、當地も其通りで出廻り少い爲、我山莊產の大根は、買手あまたで、僅か二日半で三十余圓を商ひました。かうした事なら、もつと澤山作付すれば、よかつたとも思ひますが、結局はこれでよかつたと存じます。近頃每日天氣が續いて大助かりです。今日は豆落しです。三四日中にすつかり片附く事と存じます。それ以後は、木の株拔き、小屋掛道路普請其他雜業の豫定で居ります。母上始め皆元氣ですから御安心下さい。上田君も先日、夜勤交替に來莊、仕事も馴れ、同室の人々ともなじみ、萬事心配ありませんと、元氣でまゐりましたので、安心いたしました近日行つて見たいと、存じて居ります。本郷郵便局長夫人より、大根二百本を買つていたゞき、且つ「繩は三尺以上、糸は五寸以上はとつておくべきもの」といふ事があるそうなので、それをとつておいたからと、きれいに丸めてあつた繩を澤山戴いて參りました。松本磐士夫人からも五百本買つていて蓄音機をかけるのも大儀、されど口丈は皆逢者ですから、今流行の露營の夢やら、荒城の月が出る續いて佐渡おけさ、月形半兵衛等々、合唱やら、獨唱やら、文子は食器を洗ひながら、私は由清を抱きながらです。由清まで獨特のベビー語で、合唱といふ工合、磐城に於て、父子共々の合唱を思ひ出し、こゝにお父さんが居られたら又一段と賑はう事であらう等と話し合ひ、例のおはこの花づくし合唱で、はるかに敬意を表するといふ次第。夕食後から八時の搾乳時迄の間の賑かな事、近所迄來るといふ熊でも、顏負けして姿を見せぬ事と存じます。呵々。

こゝ一週間天氣つゞきで、大多忙です。之から又大豆落しです此天氣あと五日間もつゞけば、收穫物はすつかりすみ、小屋がけの段取りです二十三日例年の通り、男達が大根を町の知人達に差上げやうと、持つて行きました處、其大根を賣つてくれとか、或家などでは四五人も飛び出して、一郎が自轉車をとばす後から、オーイオーイと呼ぶので、何事かとふりかへつて聞えて見ると、大根があるまいか、あつたら五百本もといふ譯で、顏さへ見れば大根はないかで、うつかり町へは行かれぬと大笑ひした始末です。それで大中の大根は、すつかり賣り切れました。今年は虫がついた爲、大不作で、澤庵をつけられぬそうでたゞきました。忙しいので本日は之にて失禮いたします。會の皆々樣によろしく御傳言下さい。

十月二十七日　一郎

昨夜十二時、由清が泣くものだから起き出して、今朝四時迄背中で眠らせたので、いま七時半、朝食をすました處です。こゝ迄書いた時來客につき擱筆—二十六日。由清は二十六日朝からスツカリ元氣で、若者共皆大喜び、今朝も大元氣です。牛乳があるので、夕食後一同ストーブを圍んで、それを飲み終ると、體も疲れて居る事と

會員二百名募集

（申込次第案內を送る）

◇一家を更生せんとする戶主　長男は來れ

◇一身を立てんとする一男　三男は來れ

◇詳細は申込み次第『七年會案內』を送る

磐城炭礦從業員寄宿舍

大正十二年創立　七年會

福島縣石城郡內郷村字宮澤（常磐線）（緩驛）

改名廣告

清水山莊　二郎事　大內憲二

孫共の手跡！ほんたうに大人になりましたれ。皆で大笑ひいたしました。愛國婦人會其他各方面で御講演の模樣、手にとる樣にわかりうれしく存じました。酒井桑折兩氏も、會の方へ應援に來られた由結構で御座いますれ。こゝ一週間天氣續きで、落し物もだん〳〵片つきます。私も百姓となつて三年目、カラ竿つかひも上手になりましたよ、呵々。私の手おこしの畑へ蒔いた一つかみの小豆が一斗三升とれました。小豆あり小麥粉あり砂糖あり、キンツバを燒きたいのだそうですが、生憎天氣續きで困つて居る樣です。今年は何も彼も多くとれましたから、此冬は食物の研究に好都合と、樂しみにして居ります。其內小豆其他雜穀を一俵、お送りいたしますから、小豆は紀元節の赤飯に入れて、會員諸君に上げて下さい。

十月二十八日　きみ

內郷村報の六大使命

一、政策政策を樹立して、村力の充實を期す。

二、村內公私各機關の活動狀況を報導し併せて其協調を計り、進現和進努力の實績を期す。

三、本村社會事業の徹底を期す。

四、村內の發事業を奬勵す。

五、本村と本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。

六、農餘力を以て國民養成に當る

本紙發行は大內一家の事業にして、其の社說は子孫に對する遺書を發ぬるものなり。

昭和八年八月八日　第三種郵便

內郷村報

天法人則
從順ナ

亦當然である。之を要するに、帝國の大使命達成の關鍵は、實に第二第三國民の教育如何にあると、斷言し鹿々しくも、かうした見地から、日本を文明國の班に列せしむるには、排佛棄釋、祖先崇敬に反抗し攻其處に精神的なる教育とか訓練とかを、毫も見出す事が出來ないのである。

畏くも雲上に於かせられ

本紙定價一冊金五錢一ケ月前金四十八錢
年賦金一圓五十錢
郵稅共金四十八錢

發行所　福島縣石城郡內郷村字宮澤二
內郷村報社
編輯發行兼印刷人　右金男
振替仙臺八四二〇
大內民藏

印刷所　福島縣石城郡平町一丁目二九
平活版所